

母間林道

母間林道は、母間と天城町の間の鬱蒼と木々が茂る奄美群島国立公園指定地域を横断する1,484mの舗装道路です。1977年に建設された母間林道は、商業地・宅地開発を免れた原生の山域を通っています。この林道は、希少な動植物の自然の生態が観察できる生きた博物館です。島の大部分と同様、この地域にもハブが生息しています。ハブは強力な毒を持つ蛇で、下草の茂みと見分けが付きにくい模様をしています。地元の人はハブのいる場所に近寄らないため、ハブも長年の間この地域を自然のままの状態で維持するのに貢献してきたと言えるでしょう。

島の象徴

この島で最も人気の高い動物、アマミノクロウサギ（Amami black rabbit または Ryukyu rabbit）は、徳之島の象徴的存在です。耳が短く黒い毛のこのウサギは、長い鼻面と巣を掘るための長い爪を持ち、ここ徳之島と隣の奄美大島にしか生息していません。夜行性の草食動物であるアマミノクロウサギの存在を伺い知る日中の手がかりは、道ばたに落ちている楕円形の糞や、地面に近い場所の葉っぱのかじられた跡だけです。

観察眼の鋭い人は、徳之島にしか生息していない希少なトクノシマハンミョウ（*Cicindela ferriei ndigonacea*）の青い体に輝く玉虫色の斑点を視界に捉えるかもしれません。林に棲む別の生き物には、尖った鼻先にちなんで名前が付けられたアマミハナサキガエル（*Odorrana amamiensis*）がいます。夏の終わりと秋にかけては、奄美群島にのみ生息するセミの一種、オオシマゼミのほとんど鳥のような甲高い鳴き声が鬱蒼とした林一帯に響き渡ります。

豊かで多様な植物

リュウキュウハナйкаダ（*Helwingia japonica*）は固有植物のひとつです。花筏（flower raft）とは、散った花びらが水に浮かんでいる様子を指す言葉で、その名にふさわしく、リュウキュウハナйкаダの花は、まるで緑の池に浮かんでいるかのように葉の真ん中から現れます。また、野生のランや絶滅が危惧されている野生のカンアオイ数種も生育しています。その中にはタニムラアオイ（*Asarum leucosepalum*）や徳之島の固有種であるハツシマカンアオイ（*Asarum hatusima*）が含まれます。希少で絶滅が危惧されている別の植物には、くるまった葉を持つその独特の姿からよくムムシグサと呼ばれるテンナンショウ（*Arisaema*）の一種があります。

アクセスとナイトツアー

植物や野生生物を守るため、林道の両端の入り口にはフェンスが設置されています（施錠はされていません）。この林の脆弱な環境を保護するため、林道を通る際は道路から外れないでください。アマミノクロウサギをはじめとする夜行性の動物を見てみたい方は、現地の観光オフィスにお問い合わせください。天候によっては簡単にナイトツアーを手配してもらえます。

徳之島観光連盟

〒891-7605 鹿児島県大島郡天城町浅間 1-1

電話番号：+81-997-81-2010